

高校公民プリント（過去問類似）  
公共、倫理（2025年～の共通テスト本試験）  
No.6

名前

得点

/10

問1 人間の精神発達や心理に関する記述として、文化的な差異や個人の経験を超えて、人類に共通して備わっているとされる、生物学的に基礎づけられた喜びや恐れ、怒りなどの心の動きを何というか。（2026年 全国公立入試 類似）

1. 二次感情                      2. 複雑感情                      3. 混合感情                      4. 基本感情

問2 情報通信技術（ICT）の発展に伴い、従来の対面による議論だけでなく、オンラインでの意見表明や投票など、非対面的な関わり方を組み合わせた意思決定の仕組みが模索されている。このように、情報技術を活用して市民の政治参加や合意形成を促進しようとする民主主義の形態を何というか。（2025年 全国公立入試 類似）

1. 間接民主主義                      2. 直接民主主義                      3. 電子民主主義                      4. 代表民主主義

問3 アテネの市民たちに対し、金銭や名誉を求めることよりも、自己の魂をできるだけ優れたものにすること（魂への配慮）を促し、人間にとって最も大切なことは「よく生きること」であると説いた、古代ギリシアの哲学者は誰か。（2026年 全国公立入試 類似）

1. ソクラテス                      2. プラトン                      3. エピクロス                      4. ピタゴラス

問4 ドイツの実存主義哲学において、死や苦しみ、争いといった、人間の力では避けることも変えることもできない「限界状況」を契機として、自己の有限性を自覚した人間同士が、支配や従属の関係を排し、互いの尊厳をかけて誠実に対話し高め合う関係を何と呼ぶか。（2026年 全国公立入試 類似）

1. 実存的交わり                      2. 死に至る病                      3. カへの意志                      4. 死への存在

問5 ドイツの思想家ベンヤミンは、写真や映画などの複製技術の発展に伴う芸術の変容を論じた。彼が、複製技術の普及によって失われると指摘した、芸術作品が「いま・ここ」に存在することに由来する、唯一無二の神秘的な輝きや一回性のことを何と呼ぶか。（2025年 全国公立入試 類似）

1. モード                      2. コピー                      3. アウラ                      4. コード

問6 万物に内在する普遍的な「理」と人間の本性を同一視する「性即理」を唱え、私欲を去って個々の事物の理を極めることで天命を知るとする修養論を体系化し、のちの東アジアの政治・社会秩序に大きな影響を与えた宋代の儒学者は誰か。（2025年 全国公立入試 類似）

1. 朱熹                      2. 荀子                      3. 孔子                      4. 孟子

問7 平安中期の日本では、末法思想の到来とともに、阿弥陀仏の救いを求める浄土信仰が盛んになった。この時期に、地獄と極楽の様相を対比的に描き出し、仏の姿や極楽を心に思い描く「観想念仏」を重視して、のちの鎌倉仏教の先駆となった僧侶は誰か。（2026年 全国公立入試 類似）

1. 空也                      2. 源信                      3. 空海                      4. 最澄

問8 江戸時代、赤穂浪士による討ち入り（赤穂事件）の処分をめぐり、浪士たちの行動を「私的な義」として評価しつつも、幕府の「公的な法」を維持するために彼らを処罰（切腹）すべきであると主張し、政治における法の優位性を説いた儒学者は誰か。（2026年 全国公立入試 類似）

1. 山鹿素行                      2. 荻生徂徠                      3. 新井白石                      4. 伊藤仁斎

問9 フランスの実存主義哲学者サルトルは、人間は「自由の刑に処せられている」とし、自らの選択に全責任を負わなければならないとした。この思想に基づき、自らの選択を通じて、主体的に社会や歴史の現実に関与し、責任ある行動をとることを何と呼ぶか。（2025年 全国公立入試 類似）

1. ニヒリズム                      2. エグジスタンス                      3. アンガジュマン                      4. ルサンチマン

問10 1995年に発生した阪神・淡路大震災では、全国から多くの市民が自主的に被災地へ赴き、救護や復興の支援活動を行った。この出来事を契機に、市民による自主的な社会貢献活動への認知と参加が日本社会で飛躍的に進んだことから、この年は一般に何と呼ばれるか。（2025年 全国公立入試 類似）

1. ボランティア活動                      2. ボランティア団体                      3. ボランティア休暇                      4. ボランティア元年

## 答え合わせ・解説 No.6

|     |                  |  |
|-----|------------------|--|
| 問1  | 答え 4<br>基本感情     | 文化や個人を問わず、人類に普遍的に見られる生物学的に基礎づけられた感情を指す。これには喜び、恐れ、怒り、悲しみ、驚き、嫌悪などが含まれ、表情の表出などにおいても文化を超えた共通性があることが実証されている。これに対し、嫉妬や罪悪感などは他者との関係性や社会的・文化的文脈の中で学習される社会的感情に分類される。                                    |
| 問2  | 答え 3<br>電子民主主義   | 情報通信技術（ICT）の普及により、時間や場所の制約を超えて市民が公共的な議論に参加することが可能となった。これにより、対面での集会だけでなく、インターネットを通じた非対面的な関わりを組み合わせることで、より広範な合意形成を目指す試みが進められている。   |
| 問3  | 答え 1<br>ソクラテス    | 魂をできるだけ優れたものにしようと努める「魂への配慮」を説き、単に生きるのではなく「よく生きること」を重んじたのはソクラテスである。彼は、不正に対して不正で返すことは自らの魂を劣悪にする行為であるとして、いかなる場合も不正を行ってはならないと主張した。   |
| 問4  | 答え 1<br>実存的交わり   | ヤスパーズは、死や苦しみ、闘争といった、人間の力では克服できない「限界状況」に直面したとき、人間は自己の有限性を自覚し、超越者（包括者）に出会うと説いた。そして、同じように有限性を自覚した人間同士が、支配や従属なしに、互いの尊厳をかけて誠実に対話し、高め合う関係を「実存的交わり」と呼んだ。これは、互いを尊重しつつも妥協せずに真理を追究する「愛しながらの闘い」を通じて実現される。 |
| 問5  | 答え 3<br>アウラ      | 複製技術の登場によって、オリジナルな芸術作品が持っていた「いま・ここ」にしかない一回性や本物性としての神秘的な輝きが失われると論じられた。この失われる輝きや一回性のことを「アウラ」と呼ぶ。アウラの消滅は、芸術作品の受容のあり方を儀礼的なものから展示的なものへと変化させ、大衆化を促したとされる。  |
| 問6  | 答え 1<br>朱熹       | 北宋の儒学を大成した南宋の思想家であり、宇宙の根本原理である「理」と人間の本性を同一視する「性即理」の立場をとった。彼は、個々の事物に即してその理を極める「格物致知」を説き、私欲を克服して聖人に近づくことを目指した。   |
| 問7  | 答え 2<br>源信       | 平安中期の僧である源信は、著書『往生要集』において「厭離穢土・欣求浄土」を説き、極楽往生の手立てとして阿弥陀仏の姿や極楽を心に思い描く「観想念仏」を重視した。これはのちに口称念仏（専修念仏）を唱える法然らに大きな影響を与えた。  |
| 問8  | 答え 2<br>荻生徂徠     | 赤穂浪士の仇討ち（赤穂事件）の処分をめぐることは、当時の知識人の中で激しい論争が起こった。この人物は、浪士たちの忠義を「私的な義」として認めつつも、幕府の許可なく徒党を組んで騒動を起こしたことは「公的な法」に違反するとし、天下の法を維持するために切腹に処すべきだと主張した。これは、道徳（義）よりも政治や法（制度）を重視する彼の思想を象徴する出来事である。             |
| 問9  | 答え 3<br>アンガジュマン  | サルトルは、人間は本質に先立って実存しており、自らのあり方を自由に選択する存在であるとした。そして、その自由には全人類に対する重い責任が伴うとし、自らを社会や歴史の状況に主体的に拘束・関与させること（アンガジュマン、社会参加）を説いた。   |
| 問10 | 答え 4<br>ボランティア元年 | 1995年の阪神・淡路大震災において、延べ100万人を超える市民が自主的に被災地支援に駆けつけた。この出来事は、日本において市民による自主的な社会貢献活動が広く定着する契機となり、同年に特定非営利活動（NPO）への関心が高まるなど、市民社会の形成に大きな影響を与えた。このことから、1995年は「ボランティア元年」と称されている。                          |